

大会宣言

私達、JR東日本新鉄道労働組合は本日、ここ品川の地で第1回臨時大会を開催し、定期大会までの当面する課題について方針を満場一致で確立しました。

私たちは昨年3月20日320名の仲間とともに「春闘のベア議論による一連の混乱から多くの無所属の社員を生み出してしまっている現状を鑑み、良識的な社員の参加による本来の常識ある労働組合を結成し、この難局を乗り越えよう」と立ち上がりました。あれから一年、検修職場を中心に500名を超える労働組合になりました。

結成以降、4月に東京都労働委員会への法人資格取得申請を行い、法務局に法人登録しました。その後JR東日本との労働協約及び24協定締結、11月に本部・地本事務所の契約を済ませ12月に事務所設置と大変忙しい一年でした。その間にも「7・21新鉄労組二宮地引き綱レク」「ホームページ開設」「カレンダーの配布」などを実施。現在も「3・24新鉄労組結成1周年記念 Anniversary Party!!」を計画し、成功に向けて準備中です。今後も、役員だけの活動ではなく、組合員・家族を含めた取り組みを計画・実行して一体感を持って取り組んでいきます。

今、日本は超高齢化社会の中で混迷を深めています。幼児虐待・厚生労働省による統計問題をはじめ、年金支給年齢の引き上げ・定年延長の動きや憲法改正による軍事力増強と赤字国債の膨張。更に北方領土をめぐるロシアや慰安婦・徴用工問題の韓国との外交問題等々。国会だけでなく地方議会でも様々問題が発生しています。そこで働く議員の報酬や事業は私達働く労働者の血税が使われているのです。労働者の意見を議会にどう反映させるか、労働組合と政治の関わりも議論していかなければなりません。

昭和62年国鉄改革からJRが発足し、JR東日本も一流の企業に発展・成長を遂げてきましたが、そこにはお互いを尊重し合い、議論し確認し合う労使関係があったのです。しかし、今や労使関係が崩壊し労働組合に加入していない社員が37,000名を超え、労働組合の必要性を感じていない人も出てきていますが、何故、労働組合が必要なのかを私達”新鉄労組”は分かっています。労働組合の必要性と、新鉄労組の思いを伝え組織拡大に取り組みましょう。

昨年会社はJR東日本グループ経営ビジョン「変革2027」を提起しました。少子超高齢化社会の中でJR東日本が如何に存続していくのか、そのために私達労働組合は何をするのか。会社としっかり話し合いを出来る組合に成長させていかなければなりません。そのためにも、今、大会で決定された方針に基づき、全組合員の総意と創造で奮闘していきましょう。

以上宣言する。

2019年2月23日
JR東日本新鉄道労働組合
第1回臨時大会